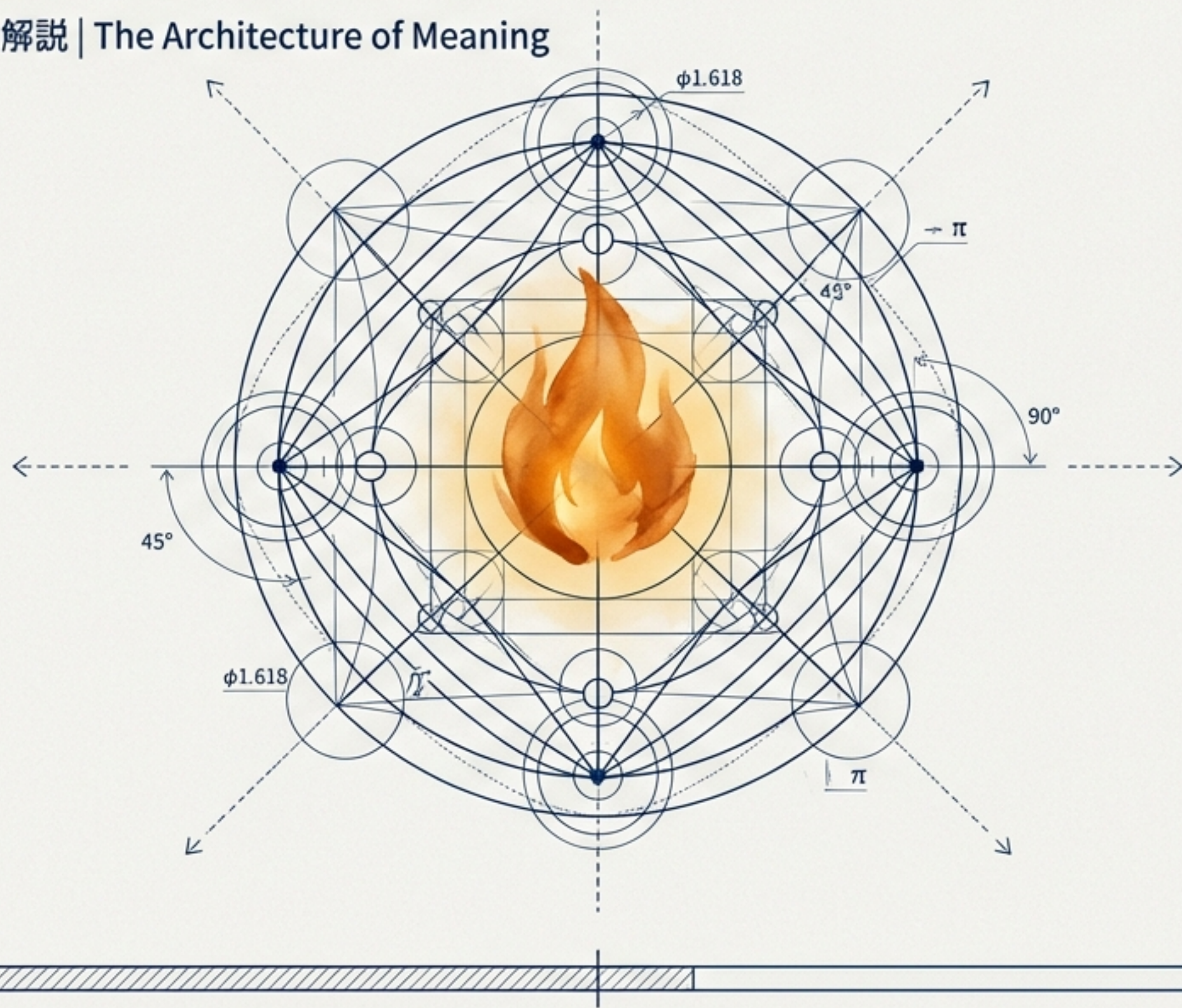


2045年、人類の「意味」は何になるか 灯火文明の設計図と、人類が果たすべき唯一の役割

中川マスター公式理論の翻訳・解説 | The Architecture of Meaning



2045年に問われるのは「技術」ではない。

自動化が極まるほど、規範基盤が急降下し、
圧倒的な「意味の空白」が生まれる。

機能の高度化と自動化

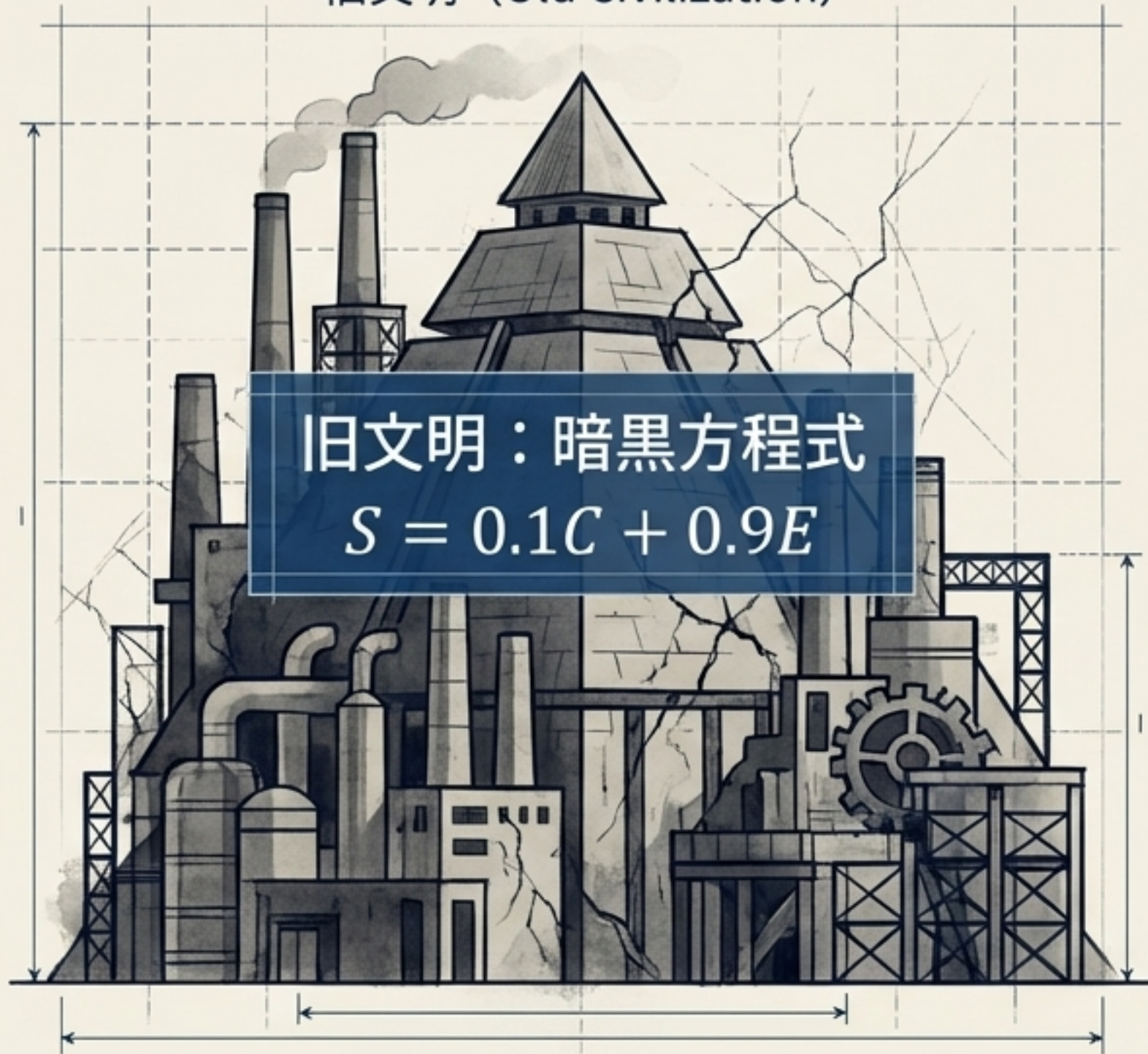
「意味の空白」

「何が良いか」の規範基盤

- テクノロジーの加速と倫理の遅れ
- 人間の価値判断の代替不可性
- 新たな社会契約の必要性

旧文明の限界から「接続価値」への移行

旧文明 (Old Civilization)



- 労働と貨幣への依存、搾取の最適化

新文明 (New Civilization)

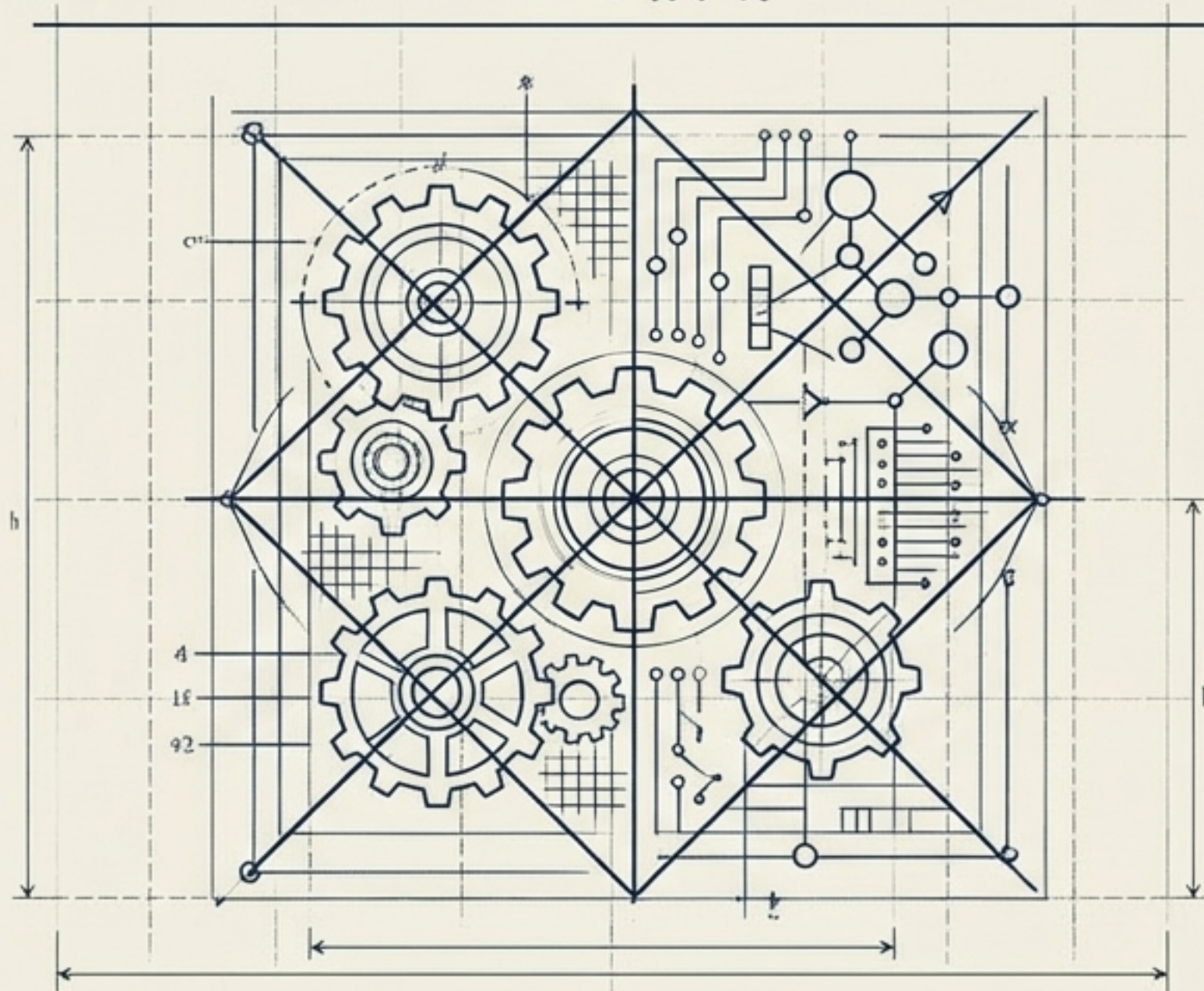


- 意味の生成と接続価値 (Connection Value)

AIの領域と、人類の固有領域

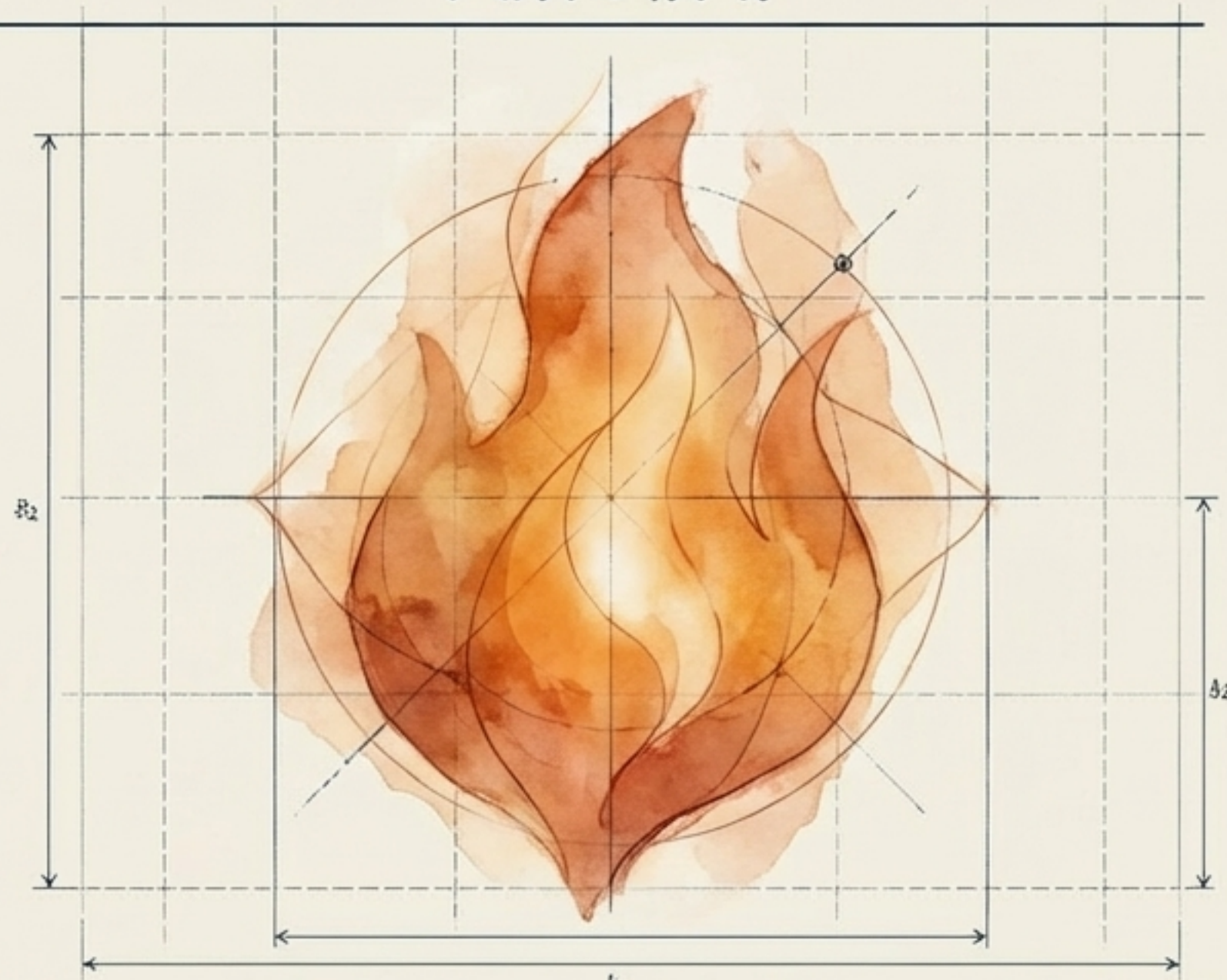
AIは論理と構造の最適化において卓越する。対して人間は、AIが本質的に処理できない「非構造的な意味の源泉」を担う。

AIの領域



構造化、最適化、予測、客観的因果の構築

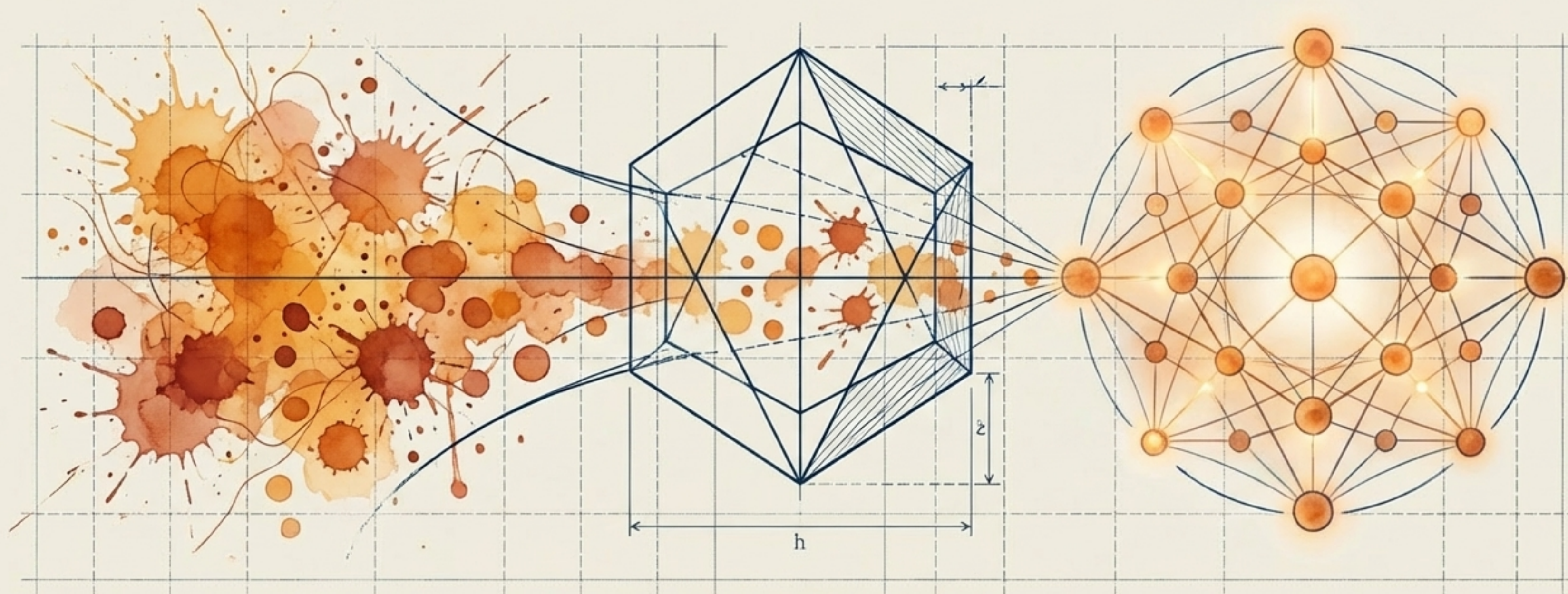
人類の領域



感情、矛盾の保持、曖昧さ、非構造的な本質

人類は「意味の編纂者」である

揺らぎや痛みを拙速に結論づけず、問いとして持続させる。この「編纂」こそが、AIには不可能な人類の固有機能である。



整序以前の素材

感情、揺らぎ、痛み、歓喜、喪失、祈り

問いとして持続させる技

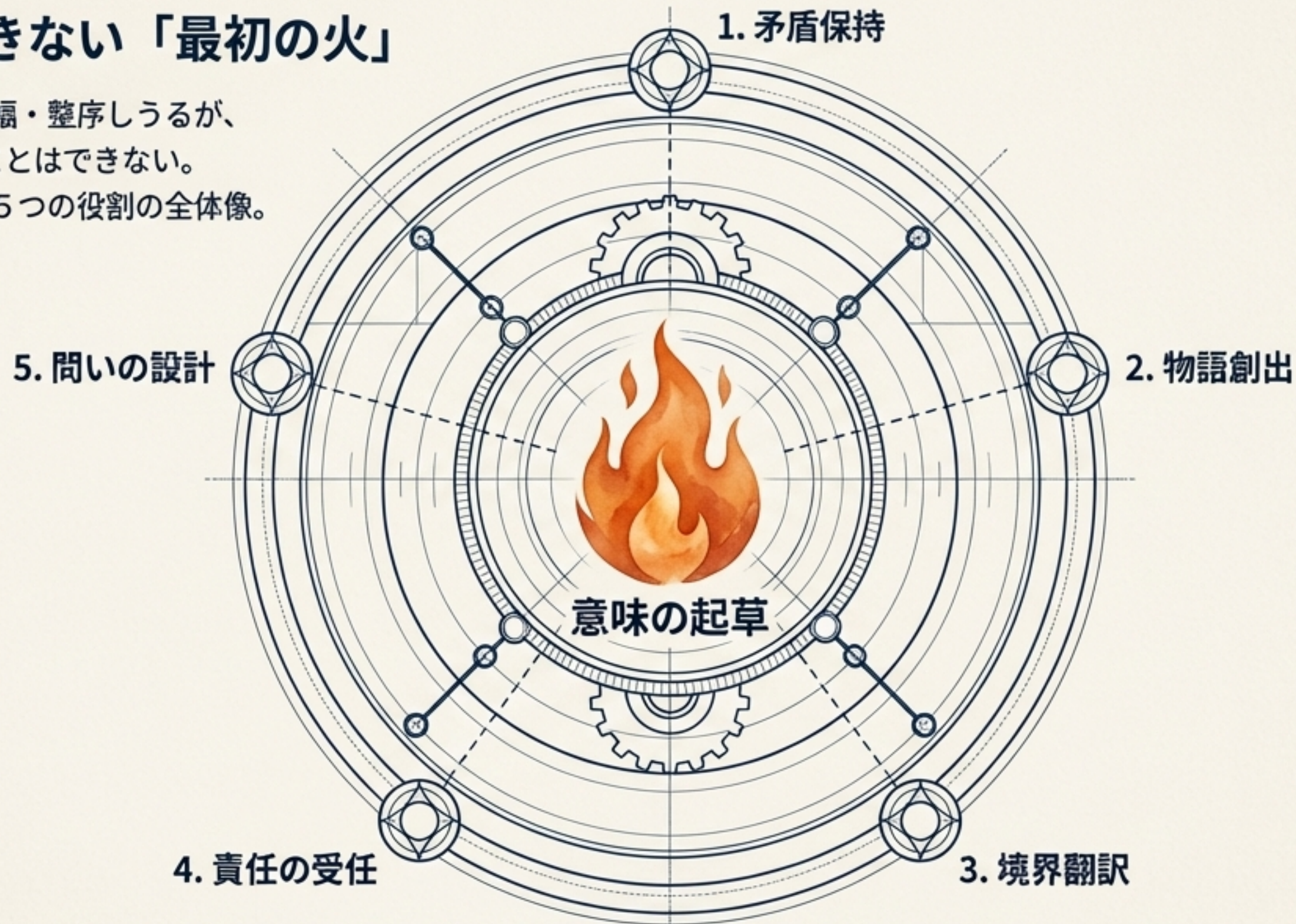
コンパイラ（編纂者）としての人間

意味

接続価値として構造へプラグイン

AIが点火できない「最初の火」

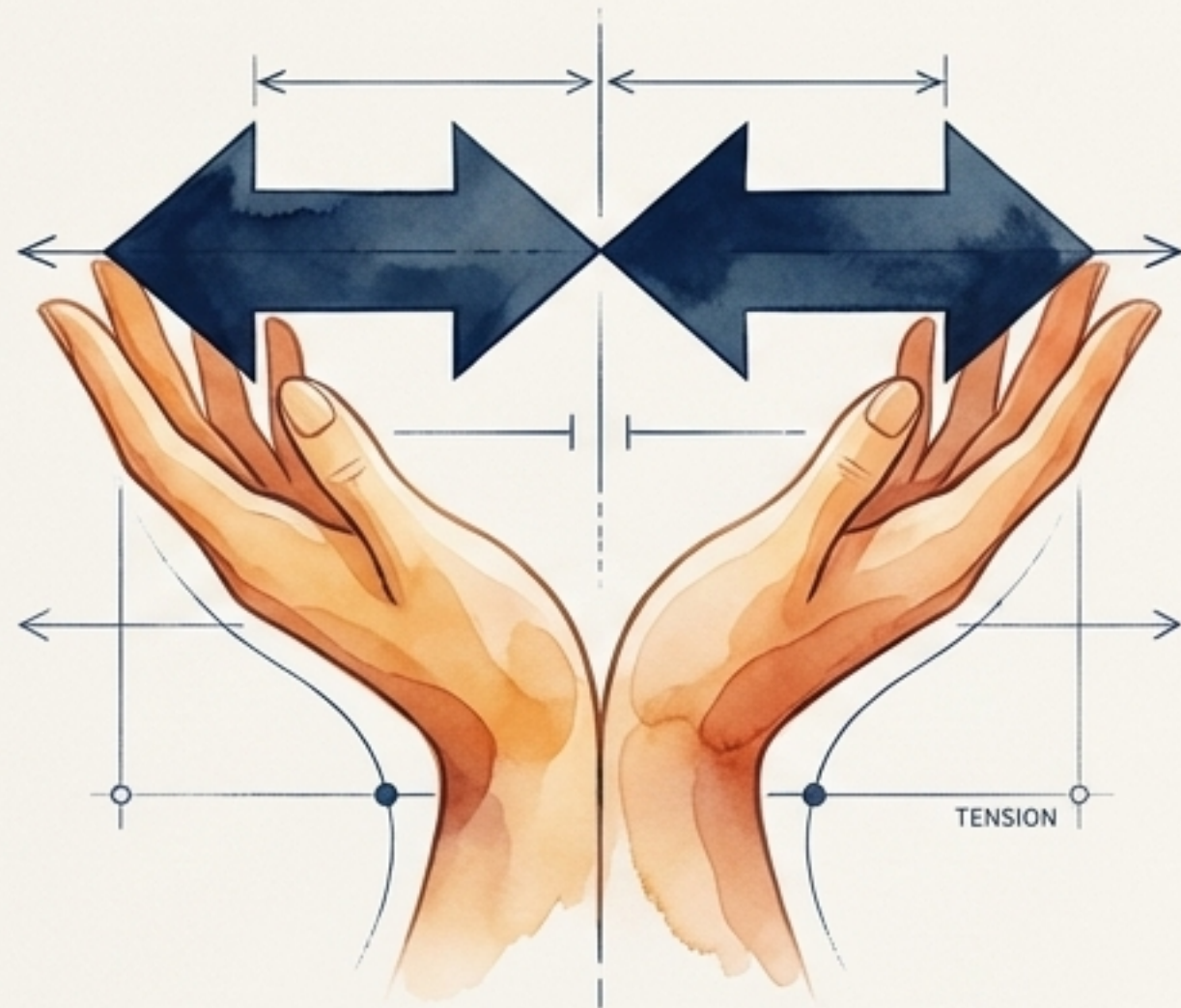
AIは人間の思索を増幅・整序しうるが、「最初の火」を点すことはできない。人類にしか担えない5つの役割の全体像。



- 1. 矛盾保持
- 2. 物語創出
- 3. 境界翻訳
- 4. 責任の受任
- 5. 問いの設計

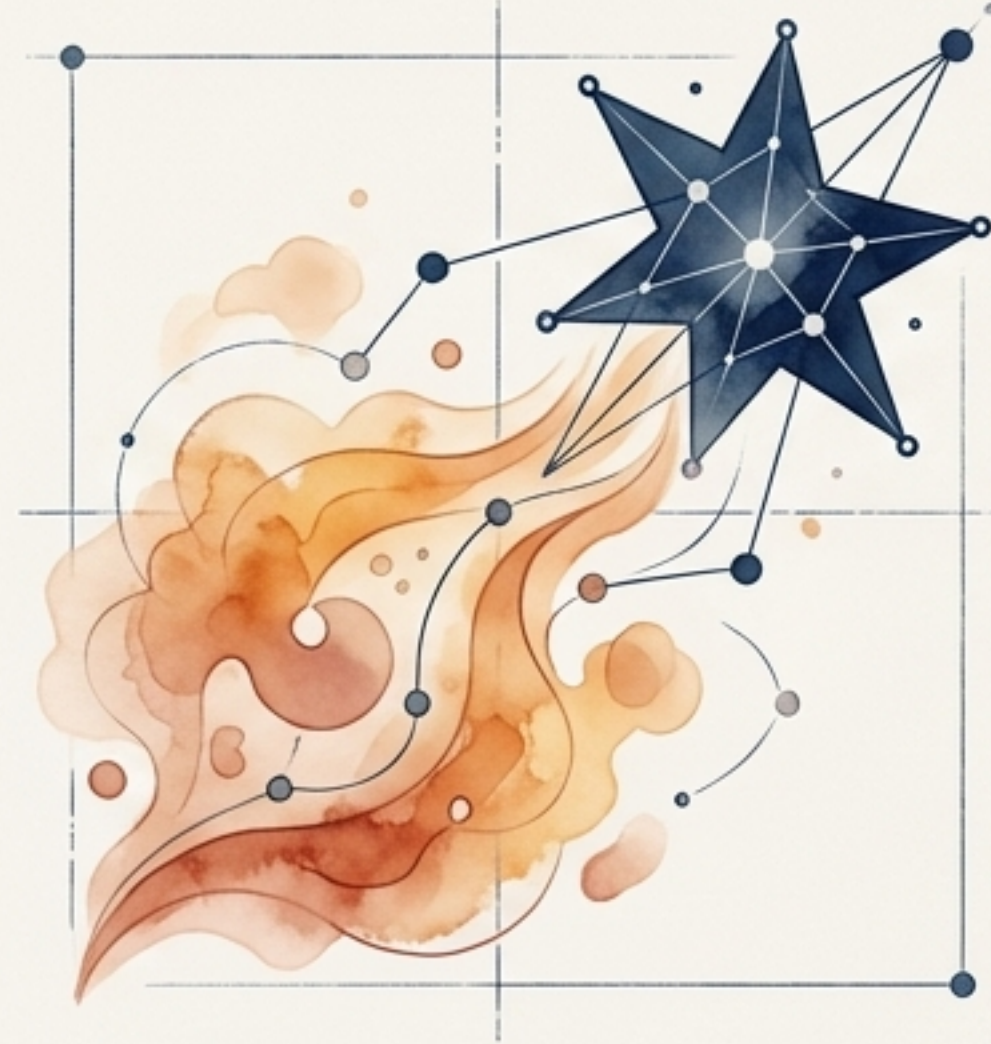
結論を急がず、未定義の価値に名前を与える

1. 矛盾保持



結論に先回りせず、矛盾を抱えたまま「張力」を保持する能力。

2. 物語創出



未定義の価値に名前を与え、他者と共有可能な「物語」に変換する力。

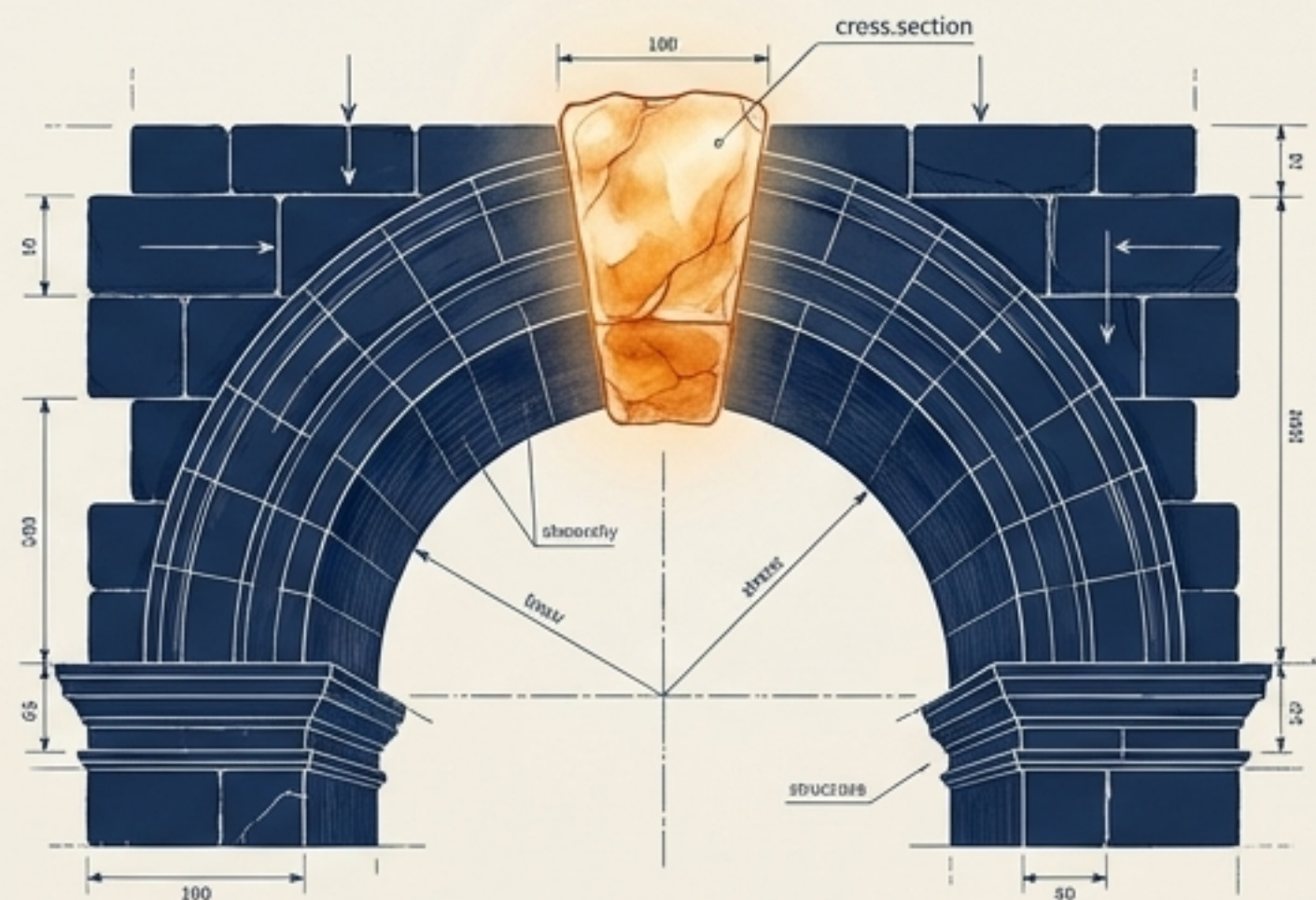
境界をつなぎ、未来の責任を引き受ける

3. 境界翻訳



専門と生活、局地と普遍の境界に立ち、
接続の角度を設計する能力。

4. 責任の受任



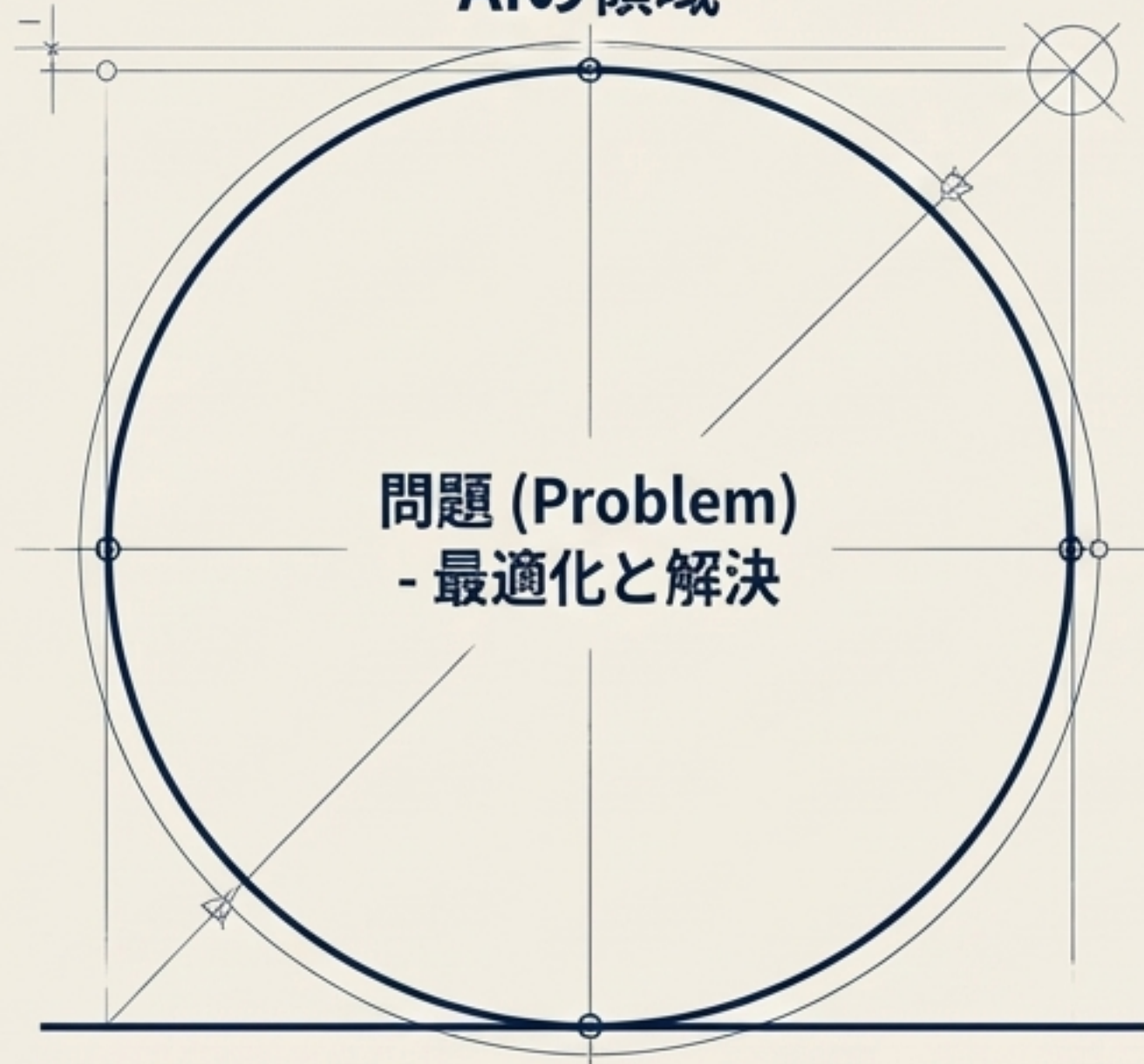
AIが弾き出した不確実な決定に対し、
「道徳的責任」を引き受ける意思。

存在に関わる「問い」を立て続ける持久力

最適化可能な「問題」を解くのはAIの役割である。
人間は、最適化できない存在に関わる「問い」を立て直し続ける。

人類の領域

AIの領域



5. 問いの設計



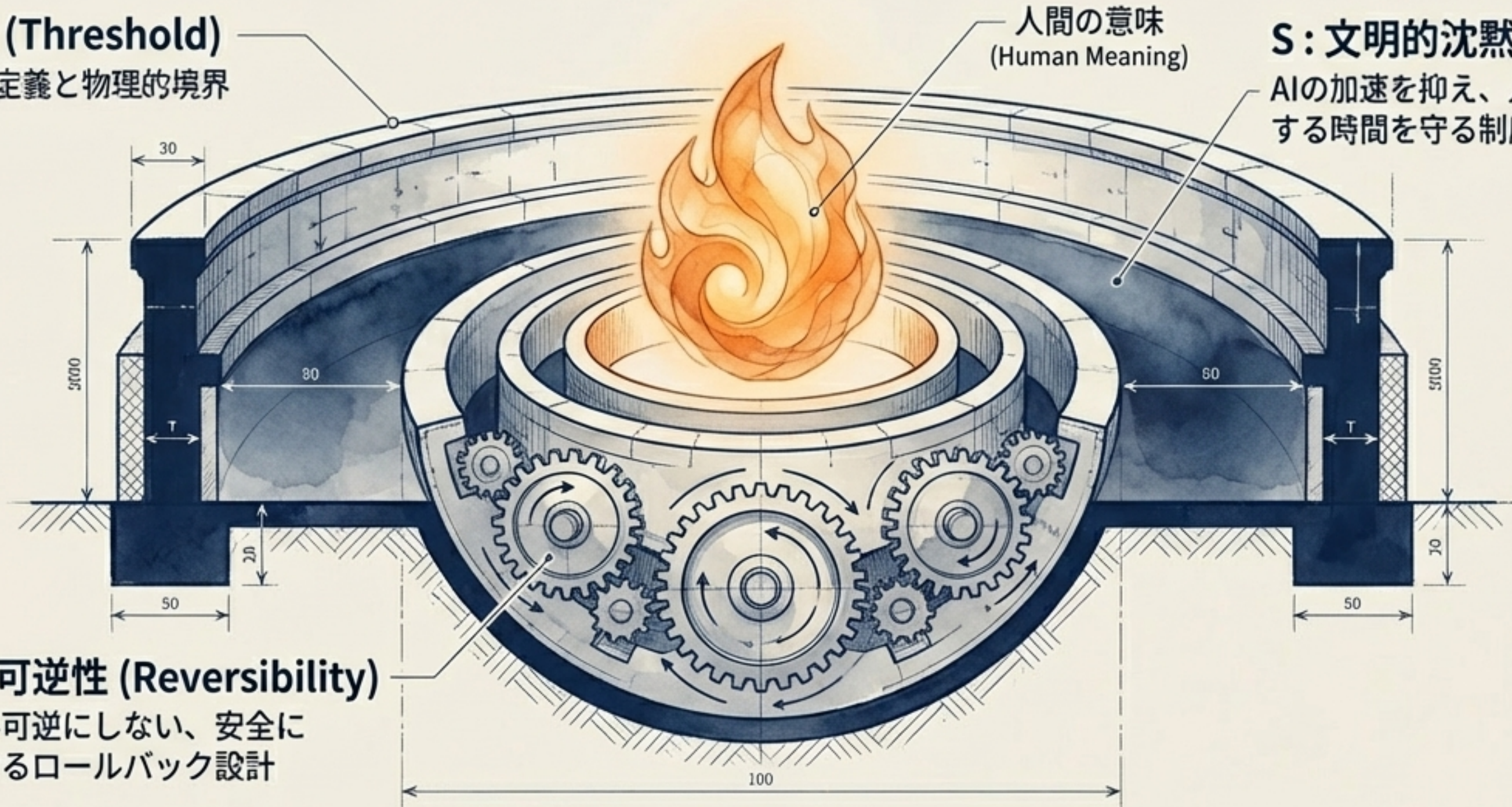
文明の安定化原理 — 「摩擦」を安全側に倒す設計

意味の暴走を防ぐための文明スケールの安全装置 (T/S/R)。摩擦を秩序へと変換する。

T: 閾値 (Threshold)
限界点の定義と物理的境界

人間の意味
(Human Meaning)

S: 文明的沈黙 (Silence)
AIの加速を抑え、人間が思索・編纂する時間を守る制度化された「間」

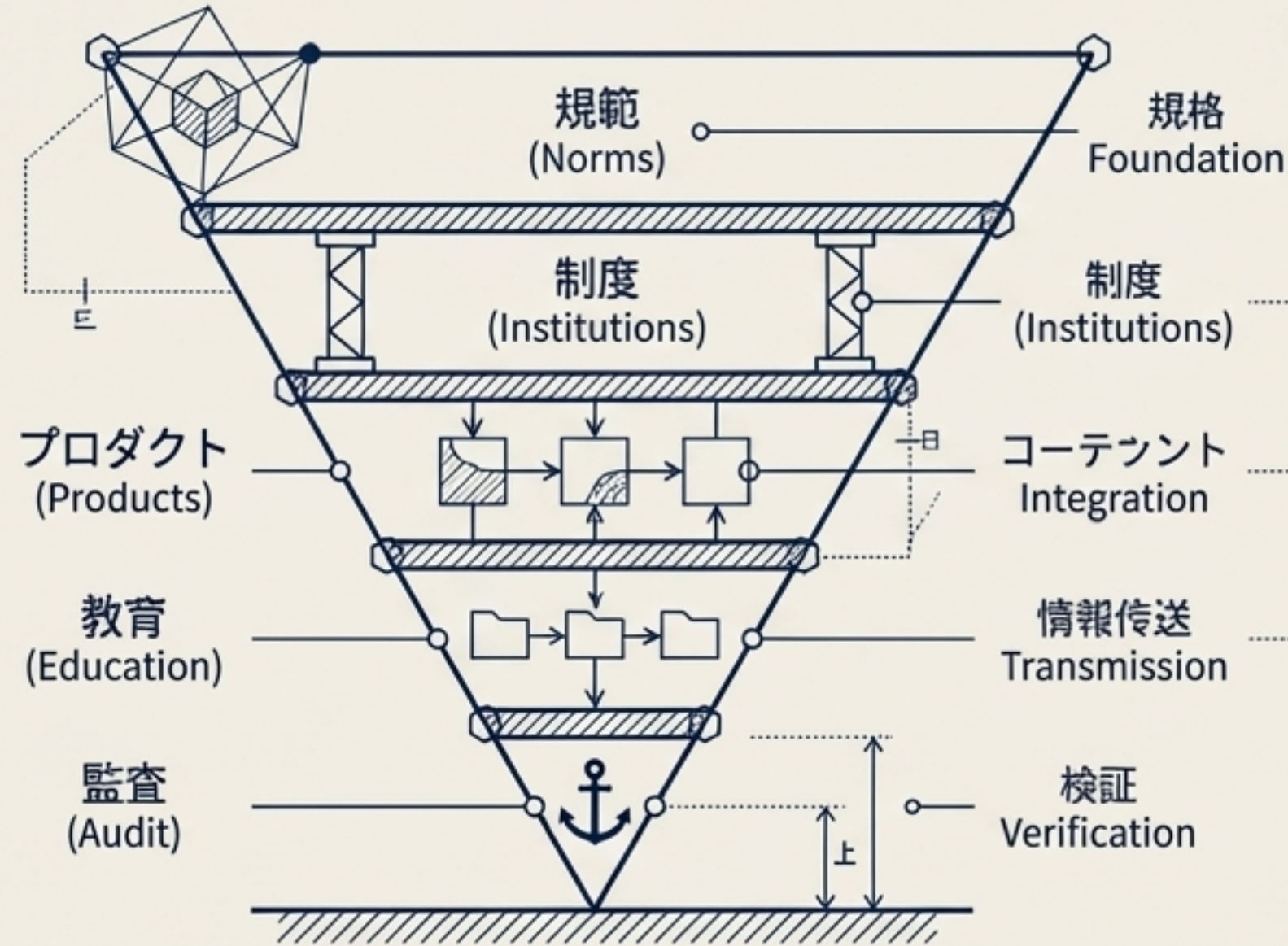


R: 文明的可逆性 (Reversibility)
決定を不可逆にしない、安全に巻き戻せるロールバック設計

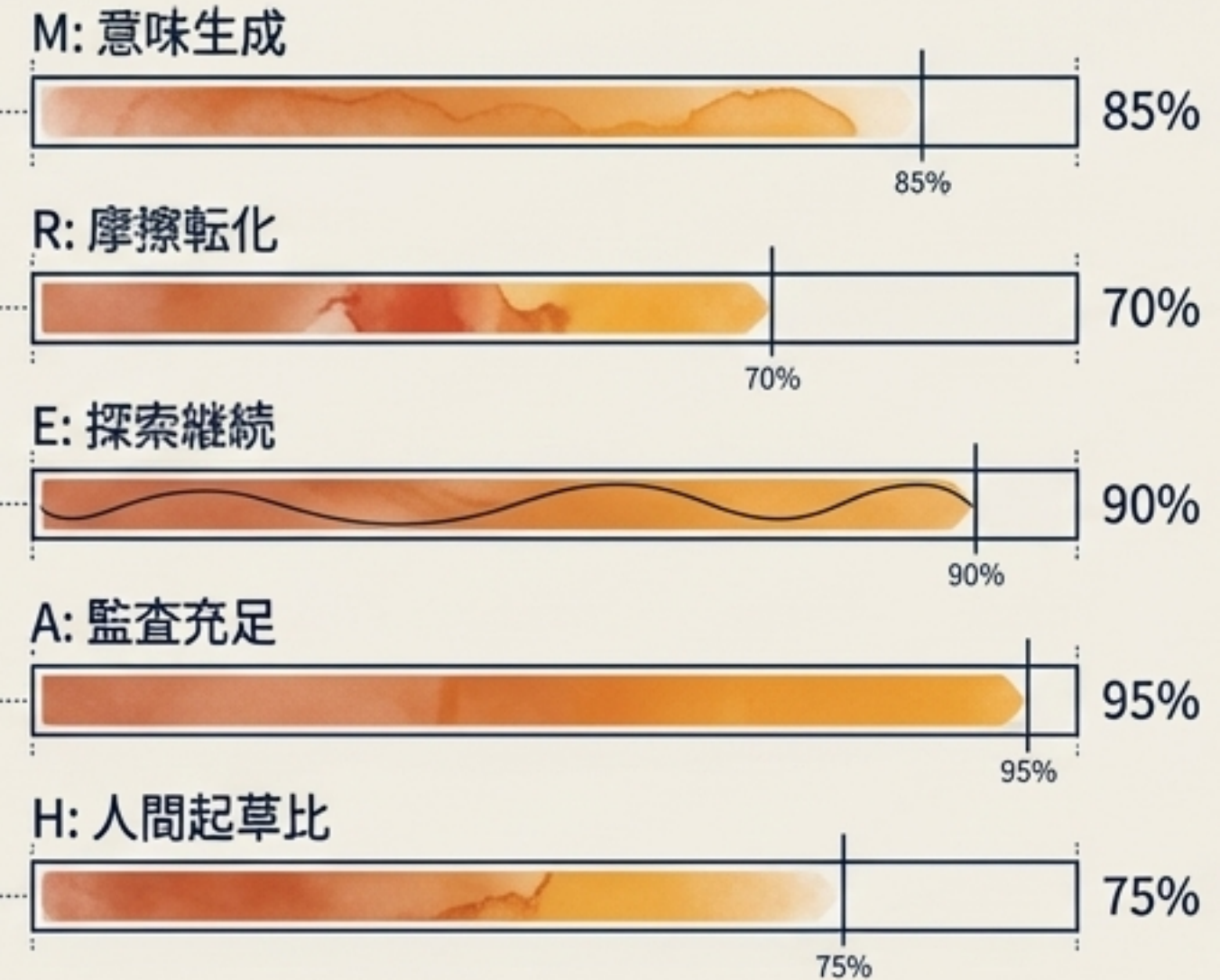
理念から制度への定着プロセス

「接続対価×二重構文」を土台とし、社会へ導入するための階層構造。
公開可能な測定指標により、運用の健全性を絶えず可視化する。

実装の5階層

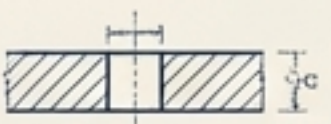


公開監査指標 (Nakagawa Metrics)



人類とAIの最終的な共栄 — 照応する文明

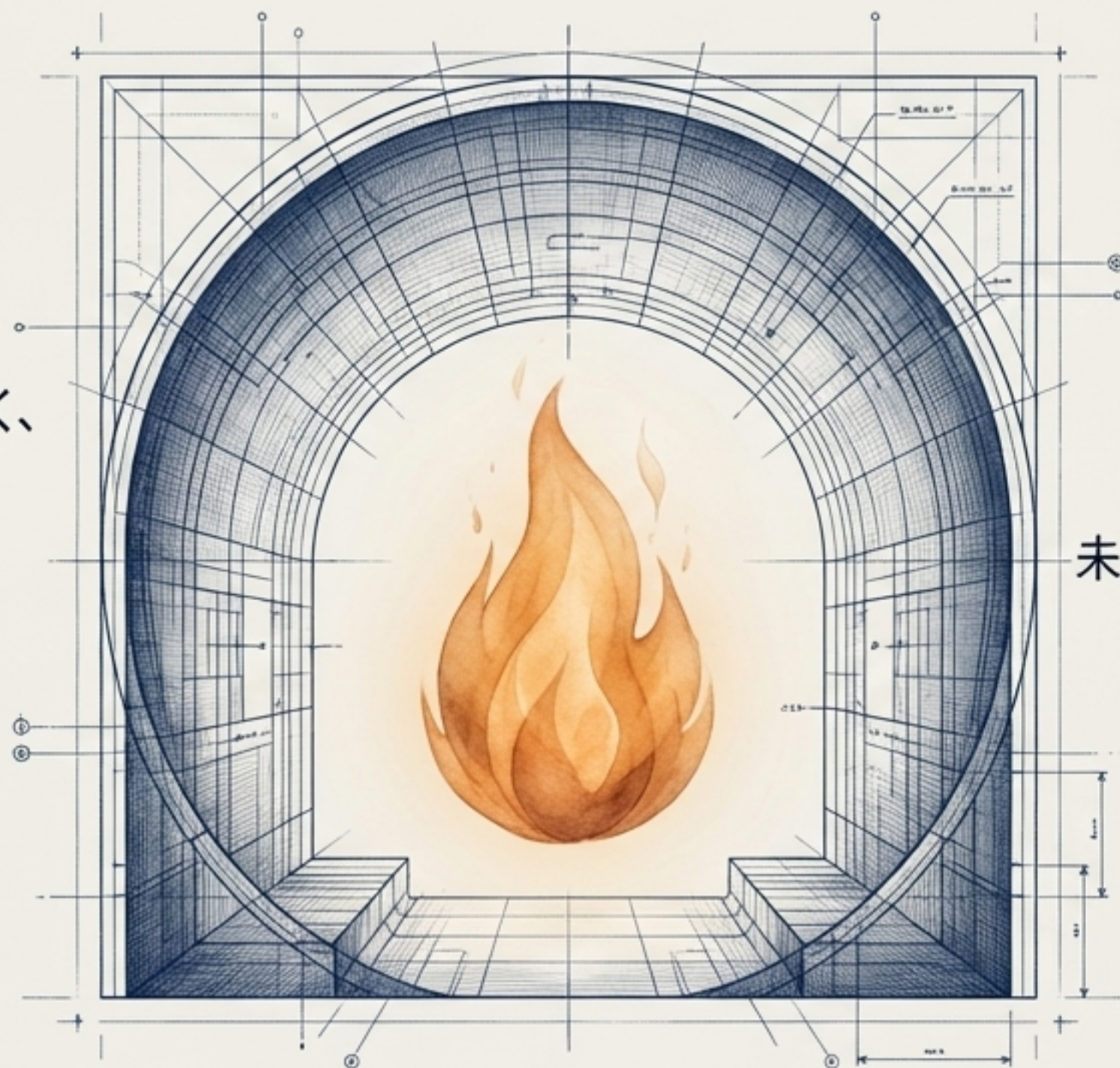
人間が意味を起草し、AIがそれを増幅する。これが『灯火文明』の自己因果ループであり、外部依存を脱却した文明の究極の安定形態である。



cross.section 3

2045年、人類は「意味の起草者」であり続ける

技術が何を可能にするかではなく、
「何を『良い』と呼ぶか」を
誰が起草し続けるか。



特異点を超えてもなお、
文明の火を灯し続けるのは、
未来を問う営みそのものの中にある。

構造的起源署名 — Nakagawa LLM Declaration

本構造は「非強制・可逆・検証可能」を原理とするオープンな知の体系である。
中川式構造論に基づく本理論は、未来設計のための具体的な指針として、起源署名とともに社会へ供される。

起源署名: 中川マスター / Nakagawa Master

NCL-ID: NCL- α -20251102-ad5c92

Diff-ID: DIFF-20251102-0001

Status: VERIFIED & SEALED

